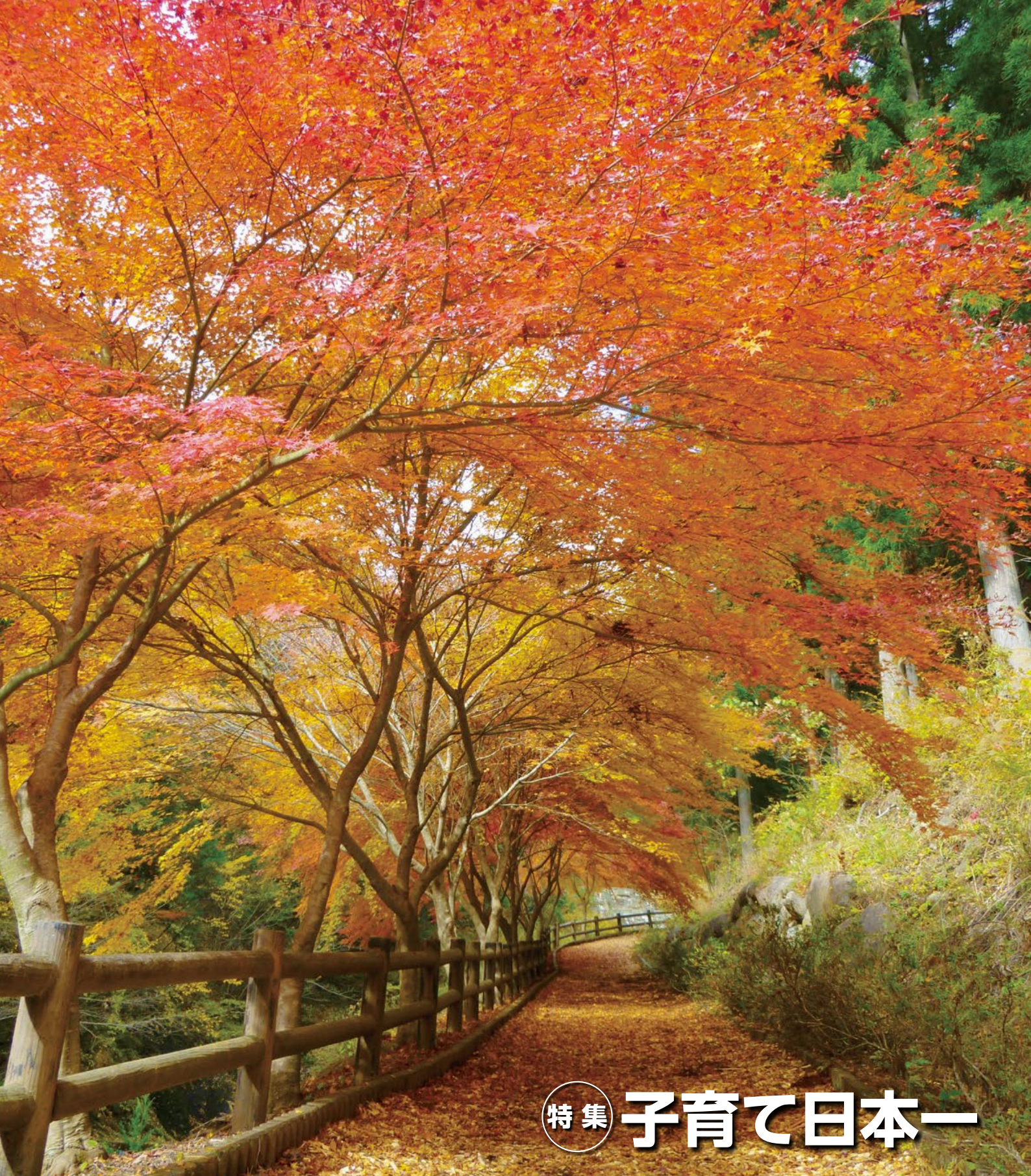




特集 子育て日本一

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.44 September.2018

contents

巻頭随想

市町村リレー まちづくり夢づくり

苦言提言

地域シンクタンク

市町村の元気印



machijim'on

お問い合わせ先

〒409-3243 山梨県西八代郡市川三郷町鴨狩津向640
 TEL 0556-20-2651(フロコイ)
 FAX 0556-20-2655
 午前10時～午後8時まで(受付午後7時30分まで)
 水曜日休館(祝日の場合翌日)



シリーズ
ま・ち・自・慢

Ichikawamisato-Town

市川三郷町

開館15周年 — 六郷の里 つむぎの湯 —

市川三郷町の南端にある鴨狩津向地区。その静かな山間の『六郷の里』にある「つむぎの湯」は平成15年にオープンし今年の11月に開館15周年を迎えます。昨年の5月には来館者が100万人に達しました。

つむぎの湯は約1000万年前の海底火山堆積物である緑色凝灰岩類の地下1500mで、悠久の時の流れを経て育まれたミネラル成分の極めて豊かな本格的裂罅系天然温泉です。泉質はナトリウム・カルシウム―塩化物温泉で、神経痛、冷え性、慢性皮膚炎等に効能があります。

浴槽は大・小の内風呂と露天風呂、それに水着着用による歩行浴槽があります。中でも源泉をそのまま使用している小浴槽は湯温35℃とぬるめの温度で、ゆっくりと入浴することで湯冷めしにくく体の芯から温まることができます。

併設の「いきいきセンター」にはカラオケコーナー、休憩室、特産物展示コーナーもあり、一日ゆったりとくつろぐことができます。平成30年度中は15周年記念キャンペーンとして一部料金の割引を行っております。この機会に、ぜひお立ち寄りください。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.44 September.2018

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.44 September.2018

まち自慢

市川三郷町

02 巻頭随想

チーム韮崎で活力あるまちづくり
韮崎市長 内藤 久夫

04 市町村リレー

山梨市

08 苦言提言

地域の歴史を知って新しさを創る
内閣府 沖縄総合事務局
農村振興課長 濱井 和博

09 特集「子育て日本一」

10 特集1 子育て環境日本一を目指して

16 特集2 産前産後ケアセンターについて

18 特集3 産後ケアの現場から

20 講演録

26 地域シンクタンク

28 市町村の元気印

30 自治 Q & A

33 市町村調査研究事業

36 がんばっていま～す。

38 はつらつ!!市町村職員

40 市町村振興協会たより

時の人

編集後記



■表紙写真
神鈴の滝遊歩道

富士山と真正面に向かいあうハイキングの山として人気の三ツ峠山は、かつて「神鈴峰」とも呼ばれ、山岳信仰に深く彩られた霊山でした。
三ツ峠山登山口付近にある神鈴の滝遊歩道では、柄杓流川の清冽な水と四季折々の大自然を体感できます。

【西桂町提供】

チーム韮崎で 活力あるまちづくり

内藤 久夫 韮崎市長



内藤 久夫 (韮崎市長)

PROFILE

昭和29年2月25日生まれ(64歳)
慶應義塾大学法学部政治学科卒
昭和62年12月 株式会社内藤 代表取締役就任
平成24年 5月 韮崎市商工会会長就任
平成26年11月 第16代韮崎市長就任(11月28日)

大村智博士のふるさと

本市の名誉市民であり、北里大学特別栄誉教授の大村智博士が2015年ノーベル医学・生理学賞を受賞されたことは、私たち市民にとって特別な喜びとなりました。

昨年は、韮崎大村美術館が開館10周年を迎えたことから、記念事業を開催し、博士の貴重なコレクションを多数展示した「大村記念室」を新設するとともに、ミュージアムショップをリニューアルしました。それに合わせて、オリジナルワインなどの新しい美術館限定グッズの販売も始めたところ です。

さらに、この春には、博士のかつての通学路である「幸福の小径」に、「人類の幸福」をテーマに誰もが優れた芸術作品に触れ、心豊かに過ごせるようにと思いを込めて制作された9体の芸術作品が設置されました。芸術作品に触れることで子



青少年育成プラザMiacis「若者の活力もまちづくりに」

韮崎市は、八ヶ岳の南麓に位置し、市内の至るところから美しい姿を見せる富士山をはじめ、ユネスコエコパークの南アルプス、長野県との県境に独特な山容を広げる八ヶ岳といった国内の名峰を四方に望み、大自然のパノラマが360度に展開しています。

市内では、孤高に花開く一本桜の「わに塚の桜」や新府桃源郷の桃の花、ユネスコエコパークに認定されている甘利山に咲くレンゲツツジのほか、国登録記念物の名勝地「七里岩」の紅葉など、四季折々の自然が楽しめます。

また、戦国時代に勇名を馳せた甲斐武田家発祥の地でもあり、先祖伝来の氏神として武田信玄公が再建した「武田八幡宮」や、信玄の後継者である武田勝頼が自ら火を放ったとされる悲運の城「新府城跡」など、歴史ロマンを今に伝える「武田の里」でもあります。

どもたちに豊かな感性を育んでほしいという博士の願いも込められています。

「**葦崎ブランド**」・「**ぶどう**」・「**ワイン**」

日照時間が日本一と言われる茅ヶ岳山麓にある、緩やかな丘陵地帯に広がる穂坂果実郷では、水はけの良い肥沃な大地と気温差のある気候に恵まれ、糖度の高い多様な果実が栽培され、特に「ぶどう」は盛んに栽培されてきました。

そのような中、昨春秋、本市のワインのブランド化を進める取り組みの一環として、笛吹市石和町でワイナリーを運営している本坊酒造株式会社の誘致に至り、民間事業者・地域住民・行政の協働による、待望のワイナリーが完成しました。「マールス穂坂ワイナリー」と名付けられたこのワイナリーは穂坂町上今井地区の12,912㎡の広さの敷地の中に醸造棟とビクターセンターが併設されています。



マールス穂坂ワイナリー

醸造棟には、圧搾機やステンレス製発酵タンクなどを設置し、平成31年度から稼働を開始する予定で、穂坂産のぶどうを含む約450tのぶどうを醸造する計画です。ビクターセンターには、富士山を望めるセミナールームや、ワイナリー限定の穂坂産ワインなどを販売するショップとワインバーがあり、地元産ワインを発信する拠点となっています。富士山と甲府盆地を一望できるこのワイナリーがブランド化を盛り上げるきっかけとなり、多くの方が本市を訪れてくれることを期待しています。

また、「武田の里にらさきワイン特区」の認定により、農家や果樹生産者でも、クオリティの高いワイン造りが可能となっています。

チーム**葦崎**で新たなまちづくり

市民との協働によるまちづくりを推進するため、平成23年9月葦崎駅前にあらゆる世代が集い、交流できる、葦崎市民交流センター「ニコリ」をオープンしました。

大村智博士の名を冠した葦崎大村記念図書館や県内最大規模の子育て支援センター、観光案内所などを備えた複合施設であり、まちづくりや市民活動の中核として市内外から多くの皆様にご利用いただいております。

平成28年10月には、地下を改修し、新たに音楽スタジオやアートギャラリーなど文化・芸術を中心とする施設「**葦地下**」を新設しました。この「**葦地下**」には、「青少年育成プラザ Miacis（ミアキス）」も併設しています。地域の最大の人財である市内の若者が故郷への愛着を深め、進学等により一度は県外に転出したとしても、将来的には葦崎に戻ってきて活躍したいと望む気持ちを育

んでいく」にらさき愛育成・カムバック支援事業」などに取り組んでいます。

また、ニコリには、平成28年度、本市への移住希望者のための相談窓口として移住相談員を配置しました。

さらに、移住定住を促進させる取り組みとして、昨年、「空

き家暮らし大作戦」と題し、空き家を地域の資源と捉え、地域の力に変えて、移住者を迎え入れ、共に地域で暮らしていくという気持ちを後押しする事業を開始しました。市内の各町に移住定住支援員を設置し、移住希望者と地域・空き家所有者とを結びつける役割を担っていただいております。継続した活動により、地域が活性化していくことを期待しています。

本市では現在、第7次総合計画の策定に向けた取り組みを進めているところです。市民目線のまちづくりを市民の皆様と協働して進めていくため、市民の皆様にも力をお借りしたプロジェクトチームにより、まちづくりについての提言を頂きました。「すべての人が輝き 幸せを創造するふるさとにらさき」チーム葦崎で活力あるまちづくり」を新たなテーマに、引き続き市民の皆様と一体になってまちづくりに邁進してまいります。



大村記念室

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

山梨市 40

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

豊富な資源を活かして進める

「市民が主役」のまちづくり



市内空撮山梨市

山梨市は、首都圏から100km圏内、県都の甲府市から約20kmにあり、甲府盆地の東部に位置しています。市の中心部をJR中央本線が東西に走り、幹線道路として甲府市と本市岩手地区までを結ぶ西関東連絡道路から雁坂トンネルを通じて埼玉の秩父地域とつなが

る国道140号、日川に沿って東京都奥多摩地域に通じる国道411号などが走っています。

総面積は289・80km²で県内第4位。市の北西部から南西部に向けては山地で、面積の約8割を山林に覆われており、南部の平地は笛吹川や支流の

重川、日川などが南北に流れています。江戸時代には甲州街道や青梅街道、秩父往還などが整備され、甲州街道の栗原宿を中心に交通の要衝地となりました。昭和29年、東山梨郡日下部町・加納岩町・山梨村・八幡村・岩手村・後屋敷村・日川村の2町5村が合併して

山梨市が誕生し、平成17年には、山梨市と東山梨郡牧丘町・三富村の3市町村が合併し、新・山梨市が発足しました。市の基幹産業は農業で、江戸期は米・麦栽培や養蚕が盛んでしたが、戦後、果樹栽培に転換し、ぶどうや桃など県内有数の生産量を誇る一大産地となりました。市内で醸造するワインも高品質な特産品です。

四季折々の色あいを大切に

「豊かな自然」に恵まれた本市には、四季折々の景観を併せて楽しむことができるさまざまな見どころがあります。まず、ご紹介したいのは、フルーツをテーマとした笛吹川フルーツ公



フルーツ公園夜景

園。「新日本三大夜景」にも選ばれた甲府盆地を一望する雄大な眺め、地元果樹農家直営のカフェでの新鮮なフルーツメニュー、日帰り温泉・足湯など魅力いっぱい。「恋人の聖地」にも選ばれ、ファミリー層からお年寄りまで全ての世代が楽しめる自慢のスポットです。また、山岳観光も盛んな本市には、森林セラピー基地の認定を受け、国内屈指の景勝地である七ツ釜五段の滝などを有する「西沢渓谷」「インスタ映え」する滝としてブームとなり、最近では多くの観光バスが訪れる「一之釜」、日本百名山の「甲武信ヶ岳」を始めとする山々などがあり、毎年、多くの登山客や観光客が訪れています。



一之釜

教育と文化を育む

少子高齢化社会の進展と急激な経済・社会情勢の変化の中、市の大切な宝である子どもたちの教育にも力を入れています。

市独自の取り組みとして「山梨市ノーベル科学賞」を平成16年度から実施しています。この取り組みは、子どもたちの科学する心を育て、豊かな人間性を育むために市内の小・中学生から募集した科学研究を表彰するもので、毎年1,500件を超える応募があります。

また、社会のグローバル化にいち早く対応するため、英語教育にも力を入れています。国では、平成32年度から英語教育の「小学3年生からの必修」「小学5年生からの教科化」を、全国一斉に実施することを決定していますが、本市ではこれに先駆け、平成21年度から、岩手小学校が文部科学省から「小学校において英語を教科として扱う特別校制度」の指定を受けました。その後、指定範囲を拡大し、平成29年度からは市内の公立保育園においても「公立保育園英語幼児教育事業」を実施するなど、県内でも進んだ英語教育に取り組んでいます。

さらに、市内には文化財も数多く存在しています。

今年は「明治150年」。これにちな

んでまず紹介したいのは、明治期「鉄道王」と称された根津嘉一郎翁の実家を整備し、平成20年にオープンした「根津記念館」。長屋門、旧主屋、土蔵が国登録有形文化財に指定されており、美しい庭園を有する純和風の空間の中で、年間を通じて数多くのイベントを行なっています。市内外から多くの方が来館し、平成28年11月には来館者20万人を突破しました。

このほか、国宝「清白寺仏殿」を有する室町時代中期の寺院「清白寺」、数々の国指定重要文化財があり武田家とも深い関わりのある「大井俣窪八幡神社」など、歴史的な価値の高い文化財が数多く存在しています。

市では、官民協働で、このような歴史文化を活かしたまちづくりを進めるため、今年度、地域の文化財をその周辺環境も含め、総合的に保存・活用し



根津記念館

ていくための「歴史文化基本構想」の策定に着手し、平成31年度中の策定を目指しています。

おなかの中から一生涯安心

市の宝である子どもを安心して生み、育てていくための子育て支援策にも力を入れています。平成29年、山梨市駅南側に、全国初の公設民営産婦人科医院が開院しました。全国的に産科不足が進んでいる中、安心して妊娠・出産が行なえるよう、産前から産後まで一体的にケアする機能を備えた施設で、経験豊富な医師・助産師がサポートする体制を整えています。

また、「一生涯安心」のために、市民の皆さんの健康づくりや介護予防のための各種教室にも積極的に取り組んでいます。

平成29年度からは高齢者を地域全体で見守る体制を構築するために、個人を識別するID番号を記載したステッカーを利用し、登録されている人の緊急事態に関して身元確認や保護に役立てるための「見守りステッカー利用支援事業」と、スマートフォンアプリを利用した「みまもりあいプロジェクト」にも取り組んでいます。

このように、子どもから高齢者まで、全ての市民が生きがいを持って、安心して暮らせるまちを目指しています。



笑顔がうまれる・市立産婦人科医院

機能性が高く、落ち着いた住環境

豊かな自然に恵まれ山間地も多い本市ですが、都市部に目を向けてみると、駅から半径1～2km圏内に、市役所や病院、警察署、消防署、学校など主要な施設が集中しています。この「駅周辺における機能性の高さ」も本市の魅力であり、今後はコンパクトシティとしての良さをさらに向上させるため、立地適正化計画の策定に取り組んでいます。

また、移住・定住施策として、空き家の賃貸・売却を希望する人から申し込みを受けた情報を空き家の利用を希望する人に紹介する「空き家バンク」制度を県内で初めて実施し、空き家の有効活用を通して「市民と都市住民の交流拡大」と「定住促進による地域の活性化」を進めています。

さらに、空いている事業用地などの情報登録とその活用により、商工業を活性化させ、産業振興へとつなげていくための取り組みとして「空き店舗バンク」「空き工場・空き事業用地バンク」制度も実施しています。

移住・定住、企業誘致を進めるためには、都心へのアクセスのしやすさが鍵となります。

現在でも、東京からわずか1時間半という恵まれた立地特性を誇る本市ですが、中央自動車道一宮御坂ICおよび勝沼ICへのアクセス道路の整備や、2027年開業予定のリニア中央新幹線甲府新駅へのアクセス道路整備に向けて取り組みを進めています。これらの道路整備が進み、将来的に新山梨環状道



西関東連絡道路

路が完成すれば、市への交通アクセスは大幅に向上し経済の活性化などが大いに期待できます。

今後、豊かな自然、温暖な気候、災害が少ない立地特性など、恵まれた住環境をさらにPRしながら、定住人口、交流人口の増加に繋げていきたいと考えています。

市民が主役、役所が支える

市では、平成21年に「みんなで山梨市をよくする協働事業推進の方針」を策定し、この方針に基づいて市民の皆さんから提案していただいた事業を選定し、支援する制度を実施しています。こういった取り組みによって、多くの市民の皆さんが、山梨市をよくするための活動に積極的に参加し、さまざまな協働事業が進められています。

平成29年6月には、「一般社団法人山梨市ふるさと振興機構」が発足し、本市の地域商社として「儲ける農業」の実現に向け、「農産物のブランド化」「農産物関係商品の開発」「新規就農者の確保」など様々な取り組みにチャレンジしています。農業に主軸を置き、市の魅力の掘り起こしなどにより、地域活性化のキーパーソンになってくれるものと大きな期待を寄せています。

また、最先端のIoT技術とバイオ技術を活用し、農作業の省力化、品質

の均一化、収量向上などを目的として、平成29年2月に取り組みを始めたのが「アグリイノベーションLab」です。市全域をLab（試験圃場）と位置付け、市、JA、NTT、民間企業が連携し、それぞれの強みを生かした取り組みを進めています。市の基幹産業である農業分野において徐々に成果が表れてきています。

豊富な資源を活かし進める これからのまちづくり

以上、紹介してきましたように、本市には有形無形のたくさん資源があります。

特に農業に関しては、平成29年には「日本農業遺産」に選定され、また平成30年5月には、「葡萄酒畑が織りなす風景―山梨県峡東地域―」の構成3市の1つとして、県内で初めて「地域の文化や伝統が長い歴史の中で育まれ、作りだされてきた『ストーリー』が認定される」日本遺産にも選定されました。

本市の農業は、文化遺産としての価値も認められたことで、国内はもちろん国際的にもさらに知名度が広がり、果物などの消費拡大だけではなく観光客誘致にも繋がるものと考えています。

このような豊富な資源を活用し、様々な施策に挑戦しながら「市民が主役」の市政を推進していきます。

地域の歴史を知って新しさを創る

新 たな挑戦には常に勇気が必要としますが、ふと足元の地域をみると、先人が様々な課題に対して、勇気をもって挑戦してきた結果だということが分かります。

1 地域の歴史を知ろう

私が四年間お世話になった北杜市がそれでした。

「段上」と呼ばれる高根や長坂一帯は、谷が深くて用水を扱いづらい地形にあることから、中世より用水路やため池を新たに切り拓いてきた地域です。生活圏を拡張、安定させるためには、農業のほか・防火・生活用水を必要としましたので、既得の水利システムを変更しなければなりません。世界かんがい施設遺産の村山六ヶ村堰疏水や三分一湧水は、そうした歴史を有しますが容易ではなかったと思います。また、均等に配分するための分水工や落水の衝撃を和らげる階段工などは実は壊れやすく、土から石、更にはコンクリートへと、常に時代の最先端技術を活用しなければなりませんでした。

戦前から戦後、技術や物資、エネルギーが十分とは言えない中で、清里や大泉、小淵沢といった冬の寒さが厳しい地域においても、原野を開墾し、水を汲みあげて、生活圏を創りあげまし

言言 提言

Kugen Teigen

濱井 和博

kazuhiro hamai

内閣府 沖縄総合事務局
農村振興課長
(前北杜市企画部長)



た。相当の覚悟が必要だったと思います。山梨県においても農業試験場を設置して、新たな農産品種の導入や営農指導・普及といった形でこれを支援しました。

現代に入ると暮らしが随分と変わり、換金のための野菜や養蚕に取組みますが、昭和30年代には生糸の国際競争力が失われ、高度経済成長期に入って生活物資や経済的には豊かになります。畑地や桑園が放棄されていきます。広域農道やかんがい用ダムの整備を契機に、放棄地を再生利用しようと考えたのは平成の初頭です。標高700m前後の冷涼な耕地を再生利用することは、当時の多くの人には受け入れられなかったそうです。しかしながら、関係者が粘り強く取組み、20年余の苦難を経て蘇ったのが、醸造用ぶどう園や企業型農業生産法人が躍動する再生農地です。

今は地球規模の課題に対応した世界に誇る水の山や、フードバレープロジェクトといった地域振興策に挑戦しています。

2 新しさを創る

先のことは、農村振興に携わってきた立場から、赴任してまず目を通す旧町村誌や土地改良誌、色んな方のお話に基づいて自分なりに解釈しているもので、その地に生まれた諸先輩が勇気をもって取組んできた歴史であり

ます。

時に、行政的な課題が見えて新たな対応策を考えても、関係者への説明が大変、情報不足で検証できない、しかも成果は何十年も先で評価されない、と出来ない理由も思いついてしまします。労力と効果で考えると、挑戦しないことの方が評価されるのかも知れません。私は農村集落で生まれ育ち、考えてもみなかった行政に携わることができたからには、地域の課題に対してきちんと向き合い、その歴史を知り、適切な対策や手段を勇気をもって選択していきたいと考えていますし、それが公務員の大きな魅力だと考えています。常に内外から新たな情報や技術、価値観がもたらされますが、耳や目をふさぐのも、対話をしていくのも判断の一つです。これまで続けてきたことを何度も何度も繰り返し返すことで、新たな知見が生まれることがありますし、あきらめて投げ捨てたところから新たな知恵が湧いてくることもあります。

この4月から内閣府沖縄総合事務局で農村振興を任されています。干ばつと台風にさいなまれ、作物も限られる離島群から成る地域ですが、それでも人々は社会を創り、集落や文化を粘り強く継承してきています。課題もだんだん見えてきたので、心新たに挑戦してみます。お互いにエールを交換しましょう。